大豆の９月中旬の巡回調査結果の概要

【東北信】　調査日　９月 11 日、14 日

＜東北信地域の巡回調査地点：東信３地点、北信３地点、計６地点＞

１　べと病

(1) 発生地点率は、東信地域では平年と比べ低かったが、北信地域では平年と比べ高かった。

(2) 発病株率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ低かった。

２　さび病

東信地域、北信地域の調査ほ場では、発病はみられなかった。

３　葉焼病

(1) 発生地点率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ高かった。

(2) 発病株率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べやや高かった（写真１）。



写真１　葉焼病（北信地域）

４　茎疫病

東信地域、北信地域の調査ほ場では、発病はみられなかった。

５　ウイルス性病害

(1) 発病は、東信地域、北信地域ともに調査ほ場でみられた。

(2) 発病株率は、東信地域、北信地域ともに平年並であった。

６　吸実性カメムシ類

(1) 発生地点率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ高かった。

(2) 寄生虫数は、東信地域、北信地域ともに平年と比べやや多かった。

(3) 優占種は、ホソヘリカメムシ（写真２）で、次いでイチモンジカメムシであった。



写真２　ホソヘリカメムシ（東信地域）

7　ハスモンヨトウ

(1) 白変葉は、東信地域、北信地域ともに発病はみられなかった。

(2) 食害度は、東信地域、北信地域ともに平年並の低い水準であった。

8　食葉性チョウ目幼虫

(1) 発生地点率は、東信地域、北信地域ともに平年並であった。

(2) 食害度は、東信地域、北信地域ともに平年並であった。

(3) 優占種は、ヨモギエダシャクで、次いでウワバ類の順であった。

9　アブラムシ類

(1) 発生ほ場率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べやや高かった。

(2) 寄生虫数は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ少なかった。

(3) 優占種は、ジャガイモヒゲナガアブラムシで、次いでダイズアブラムシであった。

10　フタスジヒメハムシ

東信地域の１地点と北信地域の１地点において、寄生成虫がみられた。

※本調査は令和５年度から開始されたため、平年値は設定されていない。

【中南信】　調査日　９月 24 日、25 日、30 日

＜中南信地域の巡回調査地点：南信２地点、中信８地点、計 10 地点＞

1　べと病

(1) 南信地域の調査ほ場では発生はみられなかった。中信地域の調査ほ場のうち６地点で発生がみられ、発生地点率は平年と比べ高かった（写真３）。



写真３　ダイズべと病（中信地域）

(2) 中信地域の発病株率、発病度は平年と比べ高かった。

2　さび病

南信地域及び中信地域の調査ほ場では、発生はみられなかった。

3　葉焼病

(1) 発生地点率は、南信地域及び中信地域ともに平年並であった。

(2) 発病株率は、南信地域で平年と比べ高く、中信地域でやや高かった。

4　茎疫病

調査ではカウントされなかったが、中信地域のほ場内で確認された。

5　ウイルス性病害

南信地域の調査ほ場では発生はみられなかった。中信地域の調査ほ場のうち１地点でみられた。

6　吸実性カメムシ類

(1)発生地点率は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べ高かった。

(2)寄生虫数は南信地域及び中信地域ともに平年と比べ少なかった。

(3)優占種については、ホソヘリカメムシが広くみられ、アオクサカメムシ(写真４)、クサギカメムシ（写真５）も確認された。



写真４　アオクサカメムシ幼虫（中信地域）



写真５ クサギカメムシ幼虫（南信地域）

7　ハスモンヨトウ

(1) 中信地域の調査ほ場２か所で若齢幼虫の食害による白変葉がみられた。なお、発生箇所の食害株数、食害程度はわずかであった。南信地域の調査ほ場では確認されなかった。

8　食葉性チョウ目幼虫

(1)発生地点率は、南信地域、中信地域ともに平年並であった。

(2)食害度は、南信地域、中信地域ともに概ね平年並であった。

(3)幼虫の寄生は、ウワバ類がみられた。

9　アブラムシ類

(1)発生ほ場率は、南信地域、中信地域とも平年並であった。

(2)寄生虫数は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べ少なかった。

(3)優占種はジャガイモヒゲナガアブラムシであった。

10　フタスジヒメハムシ

調査ほ場では確認されなかった。

※本調査は令和５年度から開始されたため、平年値は設定されていない。